

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 27 年 4 月 2 日 (2015.4.2)

【公表番号】特表 2014-524450 (P2014-524450A)

【公表日】平成 26 年 9 月 22 日 (2014.9.22)

【年通号数】公開・登録公報 2014-051

【出願番号】特願 2014-526385 (P2014-526385)

【国際特許分類】

A 6 1 K 39/39 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

A 6 1 P 31/12 (2006.01)

A 6 1 P 33/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 39/39

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 31/04

A 6 1 P 31/12

A 6 1 P 33/00

A 6 1 P 37/04

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 2 月 13 日 (2015.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

「脳下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ペプチド」(PACAP)を含む、ワクチン抗原の分子アジュバント。

【請求項 2】

前記ペプチドがペプチド又は核酸として投与される、請求項 1 に記載の分子アジュバント。

【請求項 3】

PACAP ペプチドが a) その天然源からの単離により、b) 化学合成により、又は c) 組換え DNA 技術により得られる、請求項 1 に記載の分子アジュバント。

【請求項 4】

前記ワクチン抗原が感染性因子により引き起こされる疾患の予防に使用される、請求項 1 に記載の分子アジュバント。

【請求項 5】

前記疾患が哺乳動物、魚類、又は鳥類において発生する、請求項 4 に記載の分子アジュバント。

【請求項 6】

前記感染性因子がウイルス、細菌又は外寄生生物である、請求項 4 に記載の分子アジュバント。

【請求項 7】

「脳下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ペプチド」(PACAP)、少なくとも１つのワクチン抗原及び薬学的に許容可能な媒体又は希釈剤を含む、ワクチン組成物。

【請求項 8】

感染性因子により引き起こされる疾患の予防のために使用される、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

経口、注射又は浸漬浴により投与される、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 10】

PACAP が a) その天然源からの単離により、b) 化学合成により、若しくは c) 組換え DNA 技術により得られたペプチド；又は核酸として投与される、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 11】

PACAP が、配合食料として与えられる場合には  $50 \sim 750 \mu\text{g} / \text{Kg}$  食料の濃度で、注射により与えられる場合には  $0.1 \sim 10 \mu\text{g} / \text{g}$  体重の濃度で、又は浸漬浴により与えられる場合には  $50 \sim 1000 \mu\text{g} / \text{リットル水}$  の濃度で使用される、請求項 9 及び 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

「脳下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ペプチド」(PACAP) 及び少なくとも１つのワクチン抗原を含む、ワクチンの組み合わせ。

【請求項 13】

前記 PACAP 及び前記抗原が同じ免疫化スケジュール間において同時、個別又は連続的に投与される、請求項 12 に記載の組み合わせ。

【請求項 14】

PACAP が、配合食料として与えられる場合には  $50$  から  $750 \mu\text{g} / \text{kg}$  食料の濃度で、注射により与えられる場合には  $0.1 \sim 10 \mu\text{g} / \text{g}$  体重の濃度で、浸漬浴により与えられる場合には  $50 \sim 1000 \mu\text{g} / \text{リットル水}$  の濃度で使用される、請求項 13 に記載の組み合わせ。